



地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向



「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけます。

景況調査レポート

須坂クラシック美術館



ふれあい館まゆぐら



上中町交差点付近の街並み



浮世小路

須坂市
製糸業の隆盛を
伝える街並み

令和6年5月、国の文化審議会は「須坂市須坂伝統的建造物群保存地区」を、「北信地方の製糸業の隆盛を伝える豪壮な主屋が建ち並ぶ近代の商家町」として「重要伝統的建造物群保存地区」に選定するよう文部科学大臣に答申し、官報告示を経て正式に選定される運びとなりました。これで県内の同保存地区は8地区となり(全国では129地区)、石川県と並んで全国最多となります。

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラー
にてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)



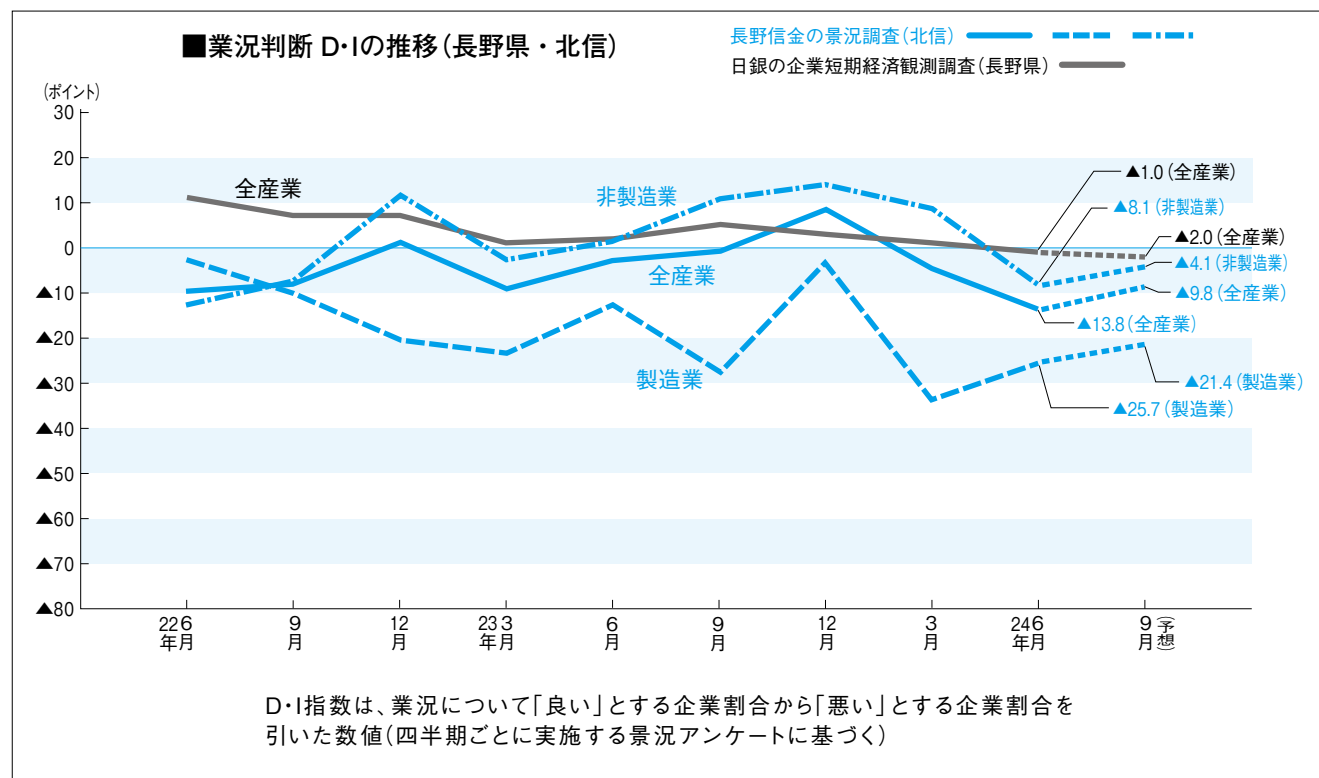
- 長野しんきん 景況調査レポート 2
- 企業アンケート「手形・小切手の廃止」① 6
- 生活者アンケート「大地震への備え」① 9
- 北信濃 明治時代の風景 (28) 須坂② 10



長野信用金庫

景況調査レポート 概況 (第196回景況アンケート調査)

◆長野県北信地区◆2024年4～6月期…景気の現状◇2024年7～9月期…景気の見通し



全産業▲4 → ▲14 製造業は改善、非製造業は悪化

2024年4～6月期の業況判断D・Iは、全産業で10ポイント悪化して▲14となりました。製造業は8ポイント改善の▲26、非製造業は17ポイント悪化の▲8です。

2024年7～9月期の全産業の業況判断D・I(予想)は、4ポイント改善の▲10となりました。

◆北信地区の4月～6月期の業況判断D・I

	前期	今期	来期(予想)
全産業	▲4	▲14 (10ポイント悪化)	▲10
製造業	▲34	▲26 (8ポイント改善)	▲21
非製造業	+9	▲8 (17ポイント悪化)	▲4

非製造業+9 → ▲8 建設業・サービス業はともに悪化

非製造業の業種別業況判断D・Iは、建設業が▲8(前期比▲19ポイント)、卸小売業が▲19(同▲14ポイント)、

サービス業が+2(同▲18ポイント)となり、全産業で悪化しています。

◆非製造業の業種別業況判断D・I

	前期	今期	来期(予想)
非製造業	+9	▲8 (17ポイント悪化)	▲4
建設業	+11	▲8 (19ポイント悪化)	+8
卸小売業	▲5	▲19 (14ポイント悪化)	▲24
サービス業	+20	+2 (18ポイント悪化)	▲2

◆売上高D・Iと収益判断D・I

	売上高D・I(「増加」-「減少」)		収益判断D・I(「増益」-「減益」)	
	前期	今期	前期	今期
全産業	▲24	▲9(改善)	▲24	▲15(改善)
製造業	▲35	▲2(改善)	▲41	▲6(改善)
非製造業	▲19	▲13(改善)	▲16	▲20(悪化)

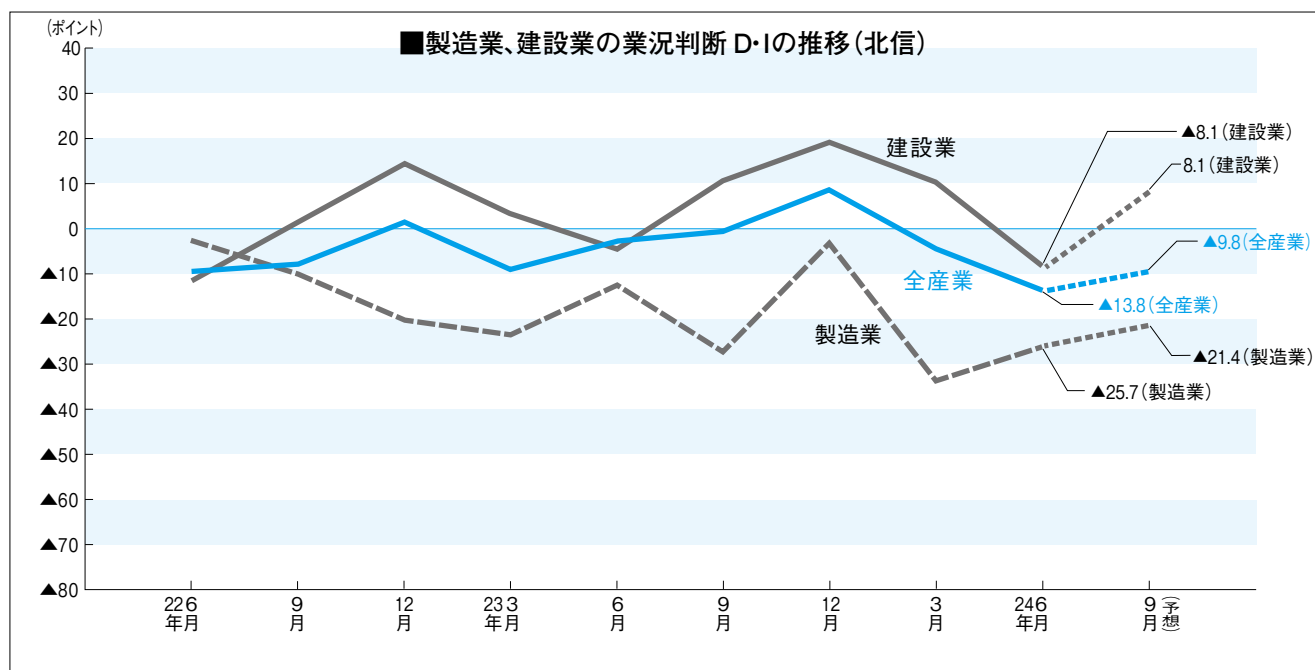
●北信地区の業況判断D・Iの推移

	2023年9月	12月	3月	2024年6月	9月(予想)
全産業	▲0.9	+8.6	▲4.3	▲13.8	▲9.8
製造業	▲27.7	▲3.2	▲33.8	▲25.7	▲21.4
非製造業	+10.9	+14.0	+8.8	▲8.1	▲4.1

[調査要領]

●調査実施……2024年6月
●調査対象企業(回収)
製造業……70社
建設業……64社
卸小売業……43社
サービス業……41社

合計……218社
●回収率……89.7%
●従業員規模
30人未満……74.8%
●分析……D・I判断指数
を中心に分析



製造業の景況

8割改善して▲26に、来期も改善の予想

製造業の4～6月期の業況判断D・Iは▲26で、前期(▲34)に比べ8割改善となりました。7～9月期は今期より5割改善の▲21の予想です。

	(前期)	1～3月期	▲34
◆業況判断D・I	(今期)	4～6月期	▲26
	(来期)	7～9月期	▲21 (予想)

◇業種別業況判断D・I

改善	精密機械
悪化	食料品・木材木製品・金属加工・一般機械・自動車部品

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲6 (35割改善)

「増益」割合 前期 11% → 19% (8割増加)

「減益」割合 前期 52% → 25% (27割減少)

◆現在の採算状況…改善

「利益確保」 前期 35% → 33% (2割減少)

「収支トントン」 前期 46% → 51% (5割増加)

「赤字」 前期 19% → 16% (3割減少)

企業からのコメント

★☆円安が進み輸入材の値上りと送料が高騰し、収益性は厳しいが、国内・海外向けともに売上は回復してきた。(医用器具)

☆★眼科医療の業界は順調ですが、船舶業界や他の金属関係が全体的にコストが上がり低調である。(検査器具)

☆★昨年度後半あたりから、コロナ禍の部品不足による生産の停滞が解消して、製品受注が回復してきた。しかし、6月から受注量が減少したため再度不安定になるのか心配である。(精密板金部品)

建設業の景況

19割悪化して▲8に、来期は改善の予想

建設業の4～6月期の業況判断D・Iは▲8で、前回(+11)に比べ19割悪化しています。7～9月期は今期より16割改善の+8の予想です。

	(前期)	1～3月期	+11
◆業況判断D・I	(今期)	4～6月期	▲8
	(来期)	7～9月期	+8 (予想)

◇業種別 総合建設 前期 +46 → +18 (28割悪化)

土木工事 前期 +7 → ▲25 (32割悪化)

建築 前期 ▲10 → ▲35 (25割悪化)

各種設備 前期 +22 → +27 (5割改善)

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲11 (3割悪化)

「増益」割合 前期 17% → 13% (4割減少)

「減益」割合 前期 25% → 23% (2割減少)

◆現在の採算状況…悪化

「利益確保」 前期 56% → 56% (横ばい)

「収支トントン」 前期 41% → 37% (4割減少)

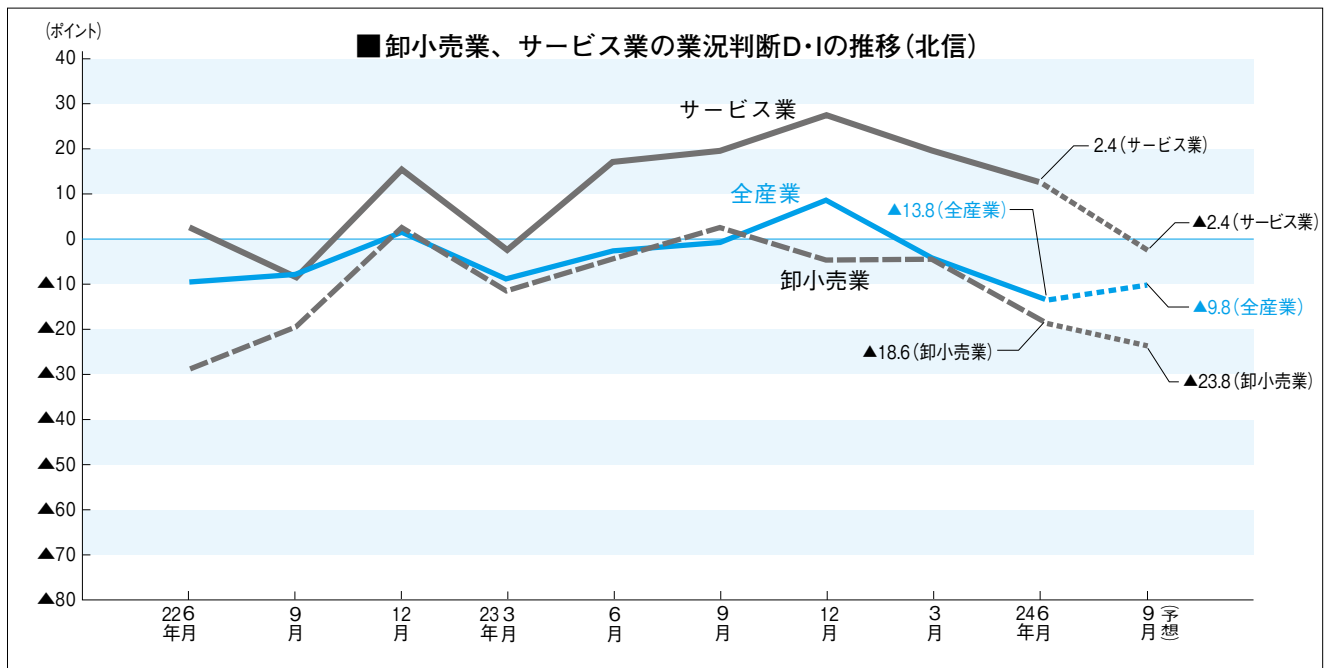
「赤字」 前期 3% → 6% (3割増加)

企業からのコメント

★相変わらずの材料高騰・円安などが影響し、顧客の購買意欲を後退させている。

☆★県内は公共工事が減少していくと予想している。民間工事への営業が必要になってくる。

★年度始めの受注状況は、災害復旧工事が落ち着きつつあるため、全体としての仕事量も落ち着いてしまっている状況である。(以上、総合建設)



卸小売業の景況

14㊦悪化の▲19、来期も悪化の予想

卸小売業の4～6月期の業況判断D・Iは▲19で、前回(▲5)に比べ14㊦悪化。7～9月期の業況判断D・Iは5㊦悪化の▲24の予想です。

◆業況判断D・I	(前期)	1～3月期	▲5
	(今期)	4～6月期	▲19
	(来期)	7～9月期	▲24(予想)

◇業種別	卸売業	前期	▲11 → ▲28 (17㊦悪化)
	小売業	前期	±0 → ▲12 (12㊦悪化)

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲33 (7㊦悪化)

「増益」割合 前期 10% → 10% (横ばい)

「減益」割合 前期 36% → 43% (7㊦増加)

◆現在の採算状況…悪化

「利益確保」 前期36% → 30% (6㊦減少)

「収支トントン」 前期48% → 49% (1㊦増加)

「赤字」 前期17% → 21% (4㊦増加)

企業からのコメント

★国内における衣料品製造メーカーの廃業が多くなっているため、確保が難しくなっている商品がでてきている。(衣料品小売)

☆★自動車メーカーのマイナスニュースが多いが、中古車市場での売れ行きは大きな変動なし。消費者の動きも特段大きな変動は見受けられない。(自動車小売・整備)

★昨年の夏場あたりから売上が下がりつつある。また、価格転嫁があまり出来ていない。(花鉢)

サービス業の景況

17㊦悪化の+2、来期も悪化の予想

サービス業全体の4～6月期の業況判断D・Iは+2で、前回(+20)と比べ18㊦悪化しました。業種別では、外食が改善し、輸送・観光・不動産・その他サービスが悪化しています。7～9月期の業況判断D・I(予想)は4㊦悪化の▲2です。

◆業況判断D・I	(前期)	1～3月期	+20
	(今期)	4～6月期	+2
	(来期)	7～9月期	▲2(予想)

◇業種別業況判断D・I

輸送 前期 ▲11 → ▲22 (11㊦悪化)

外食 前期 +30 → +50 (20㊦改善)

観光 前期 +17 → ▲25 (42㊦悪化)

不動産 前期 +20 → ±0 (20㊦悪化)

その他サービス 前期 +50 → +14 (36㊦悪化)

企業からのコメント

☆★温泉旅館として温泉以外の付加価値を求める消費者が増えてきた。当館においても周辺環境(自然)を利用した付加価値向上を図っていく。

☆国内の団体旅行が増えはじめ、特に県内の企業からも問い合わせが多くなっている。インバウンドは引続き好調である。(以上、温泉旅館)

☆★運賃の値上げを実施したが、希望価格には届いていない。燃料が高止まり状態なので、もう少し運賃が上がると良いのだが…。(運送)

雇用情勢 4～6月期

製造・外食・サービス・不動産・観光が改善

従業員の過不足感（「過剰」－「不足」）は、全産業で▲39となり、前回（▲40）に引き続き、不足感が継続しています。

雇用情勢（「過剰」－「不足」）

業 種	前期（1～3月）	今期（4～6月）
全産業	▲39.7	▲38.6
製 造 業	▲22.3	▲20.6
建 設 業	▲50.8	▲51.6
卸小売業	▲23.7	▲28.6
外 食 業	▲80.0	▲71.4
サービス業	▲83.3	▲71.4
輸 送 業	▲66.6	▲88.9
不動産業	▲40.0	▲14.3
観 光 業	▲66.6	▲50.0

資金繰り 4～6月期

製造・卸小売・輸送・不動産が改善

資金繰り状況判断（「楽である」－「苦しい」）は、全産業で▲17となり、前回（▲17）と同様、「苦しい」が上回っています。

資金繰り（「楽である」－「苦しい」）

業 種	前期（1～3月）	今期（4～6月）	来期（7～9月）
全産業	▲17.4	▲17.1	▲15.9
製 造 業	▲21.3	▲14.5	▲15.4
建 設 業	▲8.5	▲15.6	▲11.1
卸小売業	▲33.4	▲30.9	▲35.0
外 食 業	±0	▲12.5	±0
サービス業	±0	±0	±0
輸 送 業	▲22.2	▲11.1	▲11.1
不動産業	▲10.0	±0	▲11.1
観 光 業	±0	▲25.0	±0

販売価格動向 4～6月期

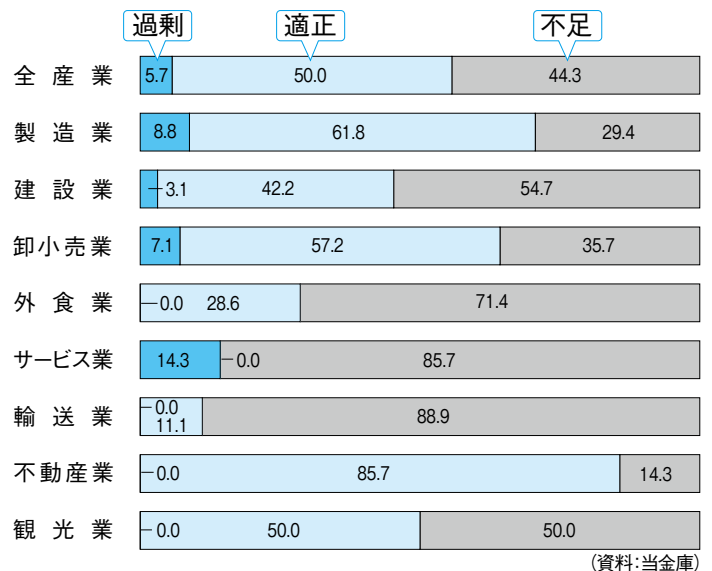
卸小売・外食・サービス・運輸・不動産・観光が上昇

販売価格動向（「上昇」－「下降」）は、全産業で+29となり、前回（+28）に引き続き、価格の上昇傾向が継続しています。

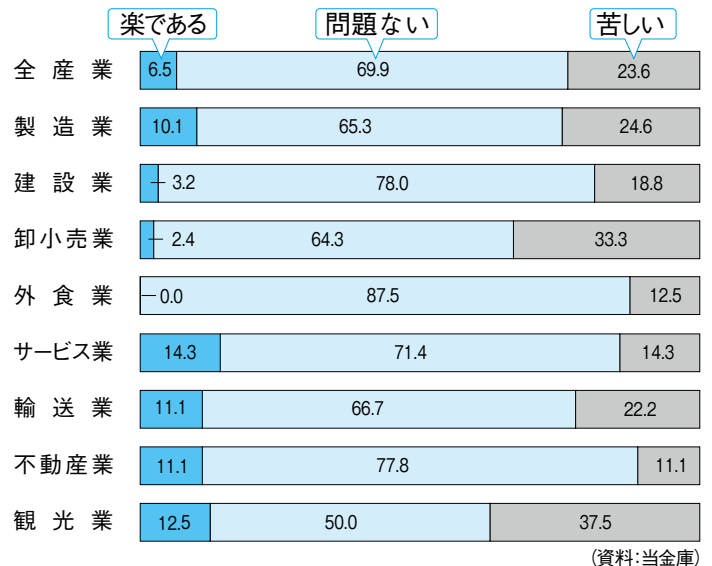
販売価格動向（「上昇」－「下降」）

業 種	前期（1～3月）	今期（4～6月）	来期（7～9月）
全産業	+28.4	+28.7	+25.4
製 造 業	+21.2	+12.9	+13.3
建 設 業	+32.2	+27.3	▲28.3
卸小売業	+42.9	+45.0	+37.5
外 食 業	+20.0	+50.0	+37.5
サービス業	+33.3	+42.9	+50.0
輸 送 業	+22.2	+55.8	+22.2
不動産業	+10.0	+22.2	+22.2
観 光 業	+16.6	+37.5	+25.0

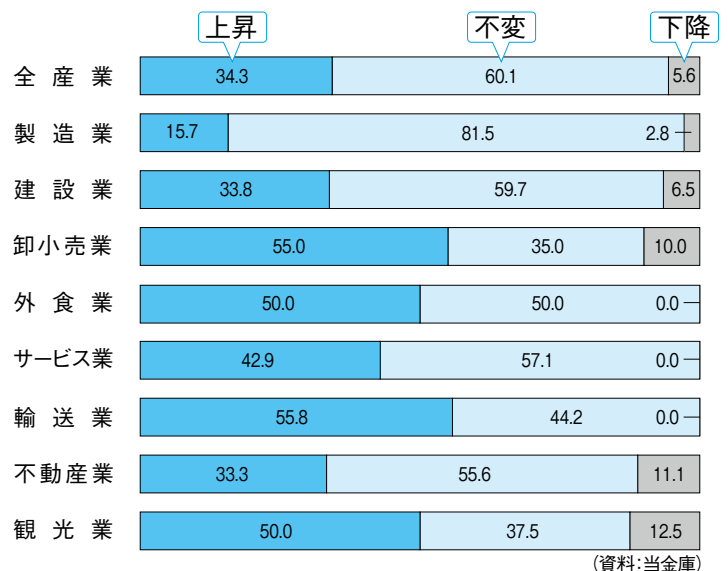
従業員の過不足感（％）



資金繰り状況感（％）



業種別販売価格動向(対前期)（％）



2026年度末までに「紙の手形・小切手」の 全面的な電子化

政府は、2026年までの約束手形の利用廃止、小切手の全面的な電子化の方針を示しております。金融界は、2026年度末までに紙の手形・小切手か

ら「電子的決済サービス」への移行を強力に推進しています。紙の手形・小切手から電子的決済サービスへの移行をご検討ください。

電子化のメリット

印紙税や取引先への
郵送料等が不要

コスト



どこでも利用でき、煩雑
な事務負担を軽減

事務負担



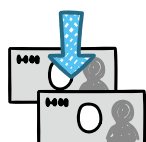
盗難・紛失の心配が
なく、災害にも強い

リスク



電子的決済サービスをご利用いただくと

支払企業



コスト削減

取引先への郵送料がかかりません。手形の電子化を図ると、印紙代の削減になります。



事務負担軽減

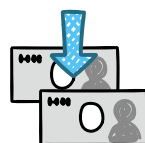
手形・小切手の振出作業や郵送作業など、支払に関する面倒な事務負担が軽減されます。



リスク低減

現物がいないため、紛失や盗難の心配がなく、災害にも強いです。

受取企業



コスト削減

領収書が不要になり、印紙代の削減になります。また、郵送料がかかりません。



事務負担軽減

領収書の作成、手形の保管・管理・取立依頼事務などは不要です。



リスク低減

現物がいないため、紛失や盗難の心配がなく、取立忘れもなくなります。



資金繰りの円滑化

支払期日に自動入金されます。また、電子記録債権は必要な分だけ分割して利用可能です。

さらに



場所を選ばず利用可能

非対面・非接触での決済取引が可能で、取引先・金融機関・郵便局等に行く必要がありません。

現在、「手形や小切手」
を使用しているか

「使用している」が6割

「電子的決済サービス」に
移行することを知っているか

「知っている」が8割強

企業アンケート
「手形・小切手の廃止」①
2024年6月調査

「手形・小切手」を決済に 使用しているか？

「現在、手形もしくは小切手を使用しているか」
を聞きました。

「使用している」は約6割の59%、「使用してい
ない」は約4割の39%でした。

「使用している」企業を従業員規模でみると、30
人以上の企業では60%、30人未満の企業では59%
と、大差はありませんでした。

業種別

◇4業種の状況

製造業 「使用している」(66%)は4業種の中で

最も高くなっています。

建設業 「使用している」(61%)は4業種の中で
3番目に高くなっています。

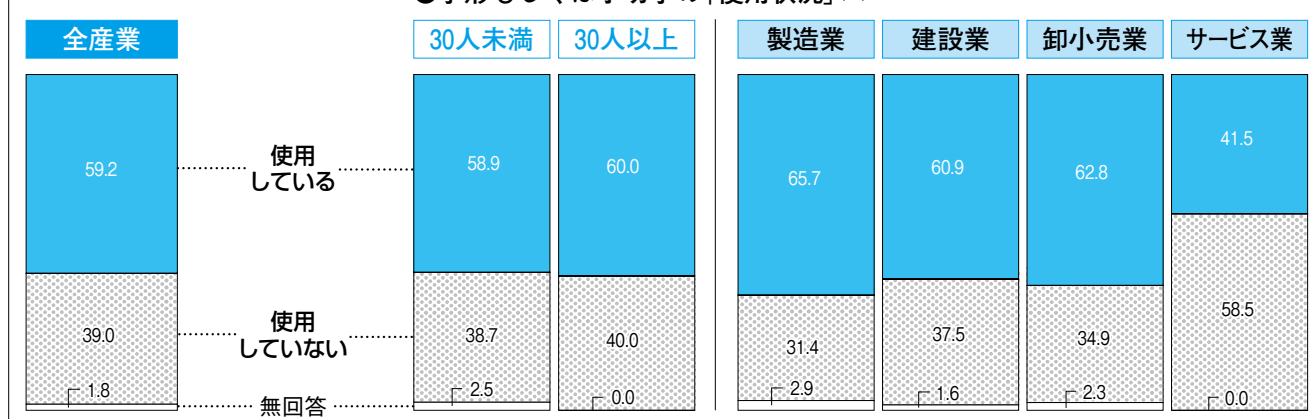
卸小売業 「使用している」(63%)は4業種の中
で2番目に高くなっています。

サービス業 「使用している」(42%)は4業種の中
で最も低くなっています。

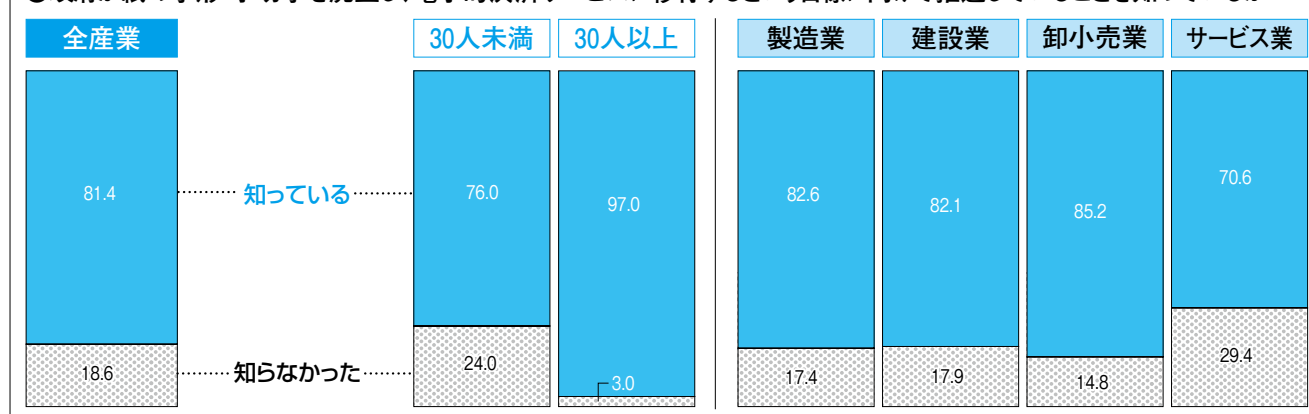
政府が、「電子的決済サービス」の移行に 向けて推進していることをご存知ですか？

「『使用している』と回答した企業に、政府が2026
年度末までに紙の手形・小切手を廃止し、電子的
決済サービスに移行するという目標に向けて強力
に推進していること」を知っているか聞きました。

●手形もしくは小切手の「使用状況」(%)



●政府が紙の手形・小切手を廃止し、電子的決済サービスに移行するという目標に向けて推進していることを知っているか(%)



「知っている」は約8割の81%、「知らなかった」は約2割の19%となりました。

「知っている」企業を従業員規模で見ると、30人未満は76%、30人以上は、97%の企業が知っているという結果になっています。

業種別

◇4業種の状況

製造業 「知っている」(83%)は4業種の中で2番目にも高くなっています。

建設業 「知っている」(82%)は4業種の中で3番目にも高くなっています。

卸小売業 「知っている」(85%)は4業種の中で最も高くなっています。

サービス業 「知っている」(71%)は4業種の中で最も低くなっています。

◇次号は「紙の手形・小切手廃止のメリット」と「電子決済サービス移行に向けて導入しているもの」を予定

[調査要領]

実施期日：2024年6月上旬～中旬

実施方法：第196回景況アンケート調査に併記

調査企業：回収218社（製造業70社、建設業64社、卸小売業43社、サービス業41社）
うち従業員30人未満163社（74.8%）

「手形・小切手の廃止」に関する企業からのコメント

製造業

- ◇長い間、使用しているシステムを変更するには、帳票類の変更の必要が生じ面倒であるが、現在、準備中である。（医療用器具）
- ◇電子的なものに変わってゆくのは、時代として仕方ないと思う。あとは、変化したものをどう運用していくかが課題になると思う。（精密板金）
- ◇あまり告知が十分とはいえず、特に高齢の経営者には理解されていないのではと思う。（食料品）
- ◇手形・小切手を廃止し、「でんさい」や「インターネットバンキング」に切り替えて回収サイト短縮の好機としたい。（電子部品）
- ◇現在、必要性を感じていない。将来的には、何らかの対応が必要と思う。（菓子）
- ◇インターネット、メールなどを普段やっていない者からすると迷惑な話である。（铸造用中子）
- ◇法律に準じた対応を準備していきたい。（乾麺）
- ◇小切手は当座からの現金引出しのみに使用している。手形はほとんど利用していない。（味噌関連）

建設業

- ◇下請け業者の方に、手間を掛けることが多くなってしまうと心配している。経理処理も見直すことになる。
- ◇小規模企業、業者に対する政府による啓蒙活動が大いに不足している。
- ◇「でんさい」や「インターネットバンキング」に移行してしまうと、業者の方々とのコミュニケーションが少なくなるのが心配である。（以上、総合建設）
- ◇廃止になったら他行の様に当座払戻し帳と振込用紙を使用して、払戻しと振込ができれば問題ない。（その他建設）

◇廃止決定に伴い、今後、どう取扱っていくべきなのか代替案の提案が欲しい。

◇年配の個人や一人親方は、「でんさい」の導入は大変だと思う。（以上、建設業）

◇今後、当座預金はどうなるのか知りたい。（土木工事業）

◇事故の観点からみると、リスク軽減となり制度自体には大いに賛成である。（内装）

卸小売業

◇各種電子化が進む中、当然の成り行きとを感じる。個人事業主様にあっては、まだまだ、ハードルが高い場合もあるかも知れませんが、世の流れに対応するしかないのかも知れないと思います。（自動車小売）

◇遠方の支払が多く、手形・小切手がなくなったら困ると思います。何らかの手を打たないといけないと思っています。（包装材料卸）

◇電子マネー時代には、手形・小切手は不要と思う。（スポーツ用品）

◇「インボイス」とかもそうだが、つくづく繁文縟礼^{はんぶんじよくれい}なことが多すぎる。零細企業にとって非常につらいこの頃です。（和洋菓子小売）

サービス業

◇こちらの準備が整っていても相手企業様がやっていないと、なかなか進まず手形等を使うことをなかなか止められずにいる。

◇上からの命令や規則ばかり作って、やる人の身になってほしい。（以上、運輸）

◇金融機関によって、手形・小切手帳代金に差がある。価格を上げて手形・小切手の早期廃止に向けてさせた方がよい。（広告）

◆お住まいの場所で10年以内に「震度6以上の地震」が起こると思いますか？

「起こる・起こる可能性が高い」62% 「起こらない」17%

生活者アンケート

「大地震への備え」①

2024年6月調査

◆日頃から「地震への備え」をしているか

「十分している・だいたいしている」29% 「あまりしていない・全くしていない」71%

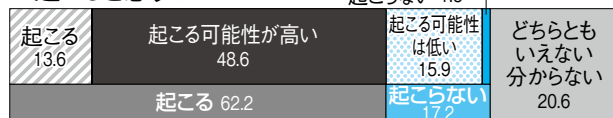
「最近、能登半島をはじめ、大きな地震が頻発していますが、お住まいの場所で10年以内に震度6以上の地震が起こるか」を聞きました。

「起こる」14%と「起こる可能性が高い」49%を合わせた「起こる」は63%、「起こる可能性は低い」16%と「起こらない」1%を合わせた「起こらない」は17%でした。

男女別で見ると、男性の「起こる」は66%、「起こらない」は16%でした。女性は同様に57%、19%となり、男性の方が警戒心が高いという結果となりました。

世代別で見ると、10～20代の「起こる」は76%、「起こらない」は13%でした。、30～40代は同様に66%、15%、50代以上は55%、20%で世代が上がるほど「起こる」が減少する結果となりました。

●お住まいの場所で10年以内に震度6以上の地震が起こると思うか(全体・%)



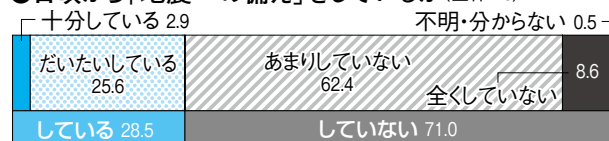
「日頃から地震への備えをしているか」を聞きました。

「十分している」3%と「だいたいしている」26%を合わせた「している」は29%、「あまりしていない」62%と「全くしていない」9%を合わせた「していない」は71%でした。

男女別で見ると、男性の「している」は24%、「していない」は75%でした。女性は同様に34%、65%の順となり、女性の方が備えに対する意識が高いという結果となりました。

世代別で見ると、10～20代の「している」は26%、「していない」は74%、30～40代は同様に26%、73%、50代以上は31%、68%となり全体的に大差はありませんでした。

●日頃から「地震への備え」をしているか(全体・%)



【調査要項】

実施期日：2024年6月上旬～中旬

実施場所：長野信用金庫本支店窓口

調査数：383人(男性226人・女性157人)

調査要領：アンケート用紙に記述(無記名)

「地震への備え」に関する生活者からのコメント

- ◇改めて、家族の集合場所を考えたいと思いました。(10代女性)
- ◇大地震への準備が大事なのは分かるが、具体的にどのくらいの準備が必要なのかが分からないため、なかなか準備が進みません。いつか必ず大地震はくると思うので、早めに準備をして、地震への備えをしようと思います。(20代男性)
- ◇通信機器が使えなくなったとき、家族との安否確認方法を決めるようにしたいです。(20代女性)
- ◇実際に災害に直面したとき、大きな被害になると想像せず(過小評価)、逃げ遅れてしまうことがあるとのニュースがあった。自分は、まずいと思ったら本気で逃げて、安全に食欲に行動していきたいと考えています。(30代男性)
- ◇人の力には限りがあり、なるようにしかならない。
- ◇備えはしておかなければと分かっているけど、後回しになってしまいがち。まず、何から準備すれば

- 良いのかなど、分かりやすい指標を行政で出してもらえるとありがたい。(以上、30代女性)
- ◇備えを「全くしていない」という感覚でもなかったけれど、家族との安否確認方法や避難場所の把握については、いつも何となく心配でいたので、話し合い・確認が必要と思いました。
- ◇これだけは最低持っていた方がよい！という物のリストがあるといいと思う。(以上、40代女性)
- ◇企業に補助金を出して「防災訓練」をやらせるとか、「アベノマスク」のように各家庭に防災グッズを配るとか、国主導でやるべきだと思う。
- ◇実際に地震で被災したニュースを見ていると、発生から援助が届くまでの期間が長いし、まちまちである。その間を何とか耐えられるくらいの備えは、最低限必要であると感じます。(以上、50代男性)
- ◇いつ起こるかわからないので、物以外に心の準備もしっかりしておこうと思います。(60代女性)

北信濃 明治時代の風景

(28) 須坂②

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



この図は、明治10年代に作られた「上高井郡
小山村郷中全図」の主要部分です。左上が北で、
右下が南です。現在の須坂市の市街南東部で、臥
竜山、メセナホール、田中本家博物館などのある
地域です。

小山村

臥竜山は独立した小丘陵であるため、古くは小山と呼ばれていました。それが地名となり、小山村となったと考えられます。図で見てわかるように沢山の集落がありますが、中心は中央部に「上下三組」と書かれている地区です。ここは町小山と呼ばれ、上組・中組・下組に分かれていました。図の上部には「コク町組」(穀町組)があります。ここは上州に通じる大笹街道沿いで、須坂とは町続きです。この図には他に「北原組」「南原組」「屋部組」「八幡組」が描かれていますが、左側の見えて

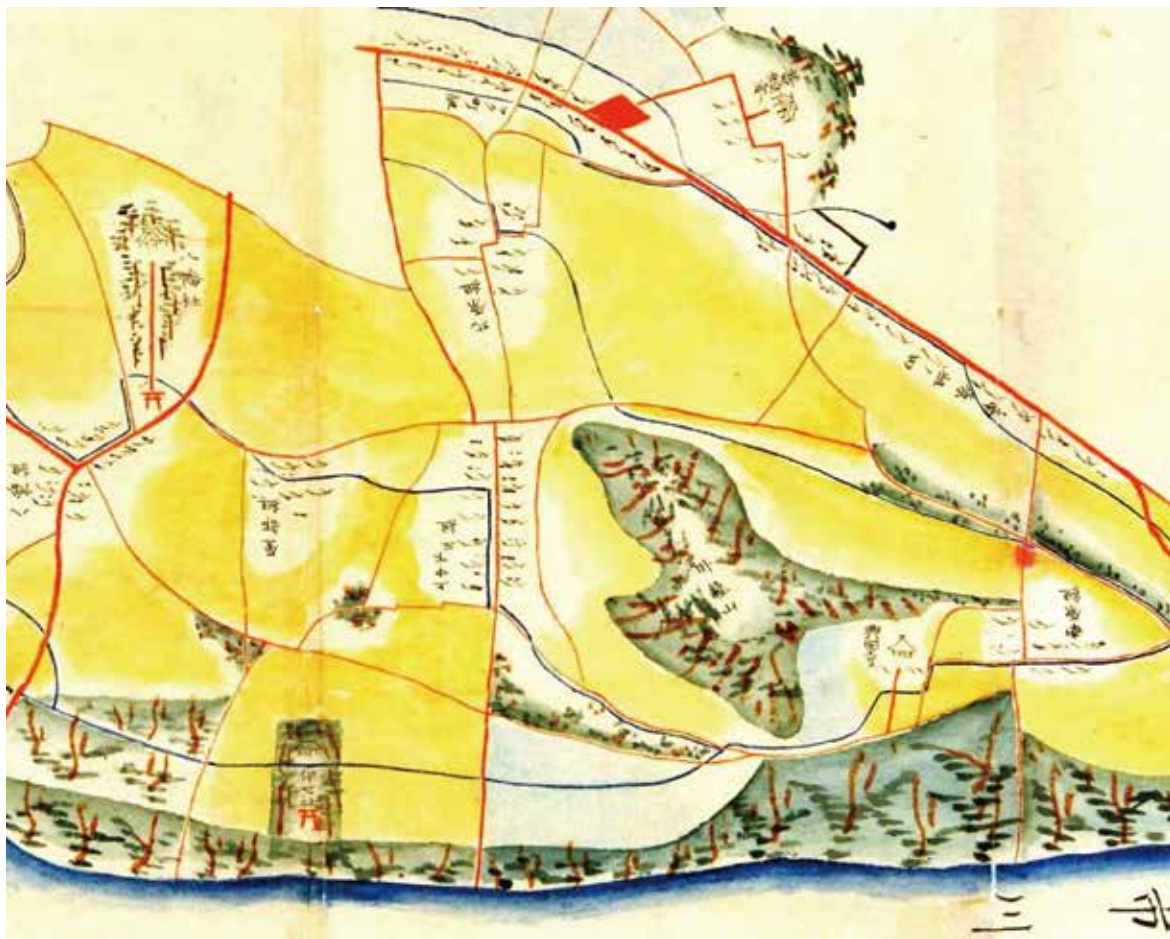
いない部分には、「堺沢組」と「高ナシ組」（高梨組）があります。

小山村の合併

小山村は明治22年(1889)に坂田村・園里村と合併して、新たな小山村となりました。ただし穀町は小山村から分離され、須坂町の一部となりました。3村が合併してできた新しい小山村は、明治25年(1892)に豊丘村と改称しました。旧小山村と旧坂田村の地域は、大正11年(1922)に豊丘村から分離して、須坂町に合併しました。須坂町は昭和29年(1954)に市制を施行して、須坂市となりました。現在の須坂市大字小山は、明治22年以前の小山村の範囲です。

穀町と田中本家

穀町は、元は小山村の上新田組でした。宝暦9年(1759)に田中新八らが穀市を開き、翌年には須



「上高井郡山村郷中全図」(長野県立歴史館蔵)

坂穀町と称することを許されました。須坂とは町続きということもあり、明治22年(1889)に小山村から分離して須坂町に合併しました。田中新八の子孫は代々新十郎と名乗って豪商となり、現在は田中本家博物館を運営しています。

須田氏

臥竜山の周辺は中世に須田郷と呼ばれ、そこを本拠とした須田氏は、須坂市井上に興った信濃源氏井上氏の一派と伝えられています。その本拠は町小山とも、現在の竜ヶ池とも言われています。戦国時代は武田方に付く者と上杉方に付く者に分かれていましたが、武田氏が滅びると上杉景勝の配下に入りました。景勝が会津を経て米沢に移されると、須田氏も同行し、子孫は上杉藩の重臣となりました。

臥竜山

元は小山と呼ばれていたといいますが、興國寺の永正2年(1505)の鐘銘に「臥龍山興國禪寺」とあることから、中世から臥竜山の名があったことが分かります。竜が臥したような姿の山ということでしょう。古墳群があって古代から墓所であったようですが、中世には須田氏が山城として用いていました。江戸時代には須坂藩主堀家の墓所が設けられました。幕末の藩主堀直虎の廟もあります。観音堂や百番観音の石仏も建立されました。

近代の須坂は製糸の町として発展しました。工女たちの保養の場として臥竜山一帯の公園化が計画され、昭和2年(1927)から工事が始まり、昭和6年(1931)に竣工しました。その最大の事業は、人工池竜ヶ池の造成でした。動物園が開設されたのは、戦後の昭和37年(1962)のことです。

百々川

この図の下段に描かれている川は現在の百々川どどがわですが、「市川」と書いてあります。大正14年(1925)に発行された『長野県市町村提要』によれば、米子川と灰野川が合流して市川となり、市川が下流で鮎川を合わせて百々川となることになっています。



臥竜山の麓にある臥龍山興國寺

市川は、生血川いきちが変化して市川となったと伝えられています。市川は上流に硫黄鉱床があるため、川底が赤褐色をしているからでしょう。昭和に入ると、現在のように市川も含めて百々川と呼ぶことが定着したようです。

興國寺

臥竜山の麓に描かれている「興國寺」(興國寺)は曹洞宗で、元々須田氏の菩提寺でした。江戸時代に堀氏が須坂藩主となるとその菩提寺となりました。本堂前の臥竜梅は、塙団右衛門が朝鮮から持ち帰ったと伝えられる名木で、須坂市指定天然記念物となっています。

慶長3年(1598)上杉景勝が越後から会津に移されると、須田長義は梁川城(福島県伊達市)の城代となり、近くに郷里と同じ臥龍山興國寺を創建しました。現在は伊達市を代表する寺院の1つとなっています。

八幡社

図の左方に、鳥居から長い参道が延びている「八幡社」は、小山村の産土神です。正式名称は墨坂神社ですが、市内に同名の神社があるので、八幡の名で知られています。

8月号は「湯田中・渋温泉」の予定です。

◆震度6以上の地震が起こることを予測して、備えをしている方に「日頃から何を準備」しているか
「飲料水や食料の備蓄」85% 「医薬品・ラジオ等が入った非常持出袋」42%
「カセットコンロ・燃料」27%

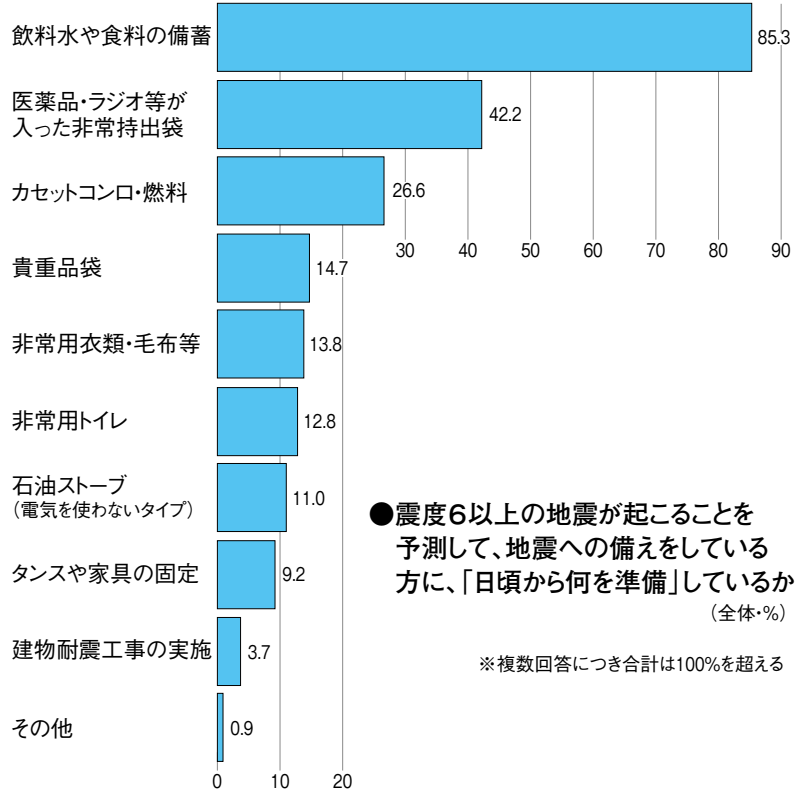
「震度6以上の地震が起こることを予測して、備えをしている方に、日頃から何を準備しているか」を聞きました。

全体の1～3位を見ると、「飲料水や食料の備蓄」85%、「医薬品・ラジオ等が入った非常持出袋」42%、「カセットコンロ・燃料」27%となっています。

男女別で見ると、男性・女性ともに全体と同様になりました。

世代別で見ると、10～20代、30～40代、50代以上ともに全体と同様となりました。

〈当金庫・2024年6月調査〉



●みなさまの税務相談のご案内 [8月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日		午 前	午 後	開催日		午 前	午 後
8月 2日	金	若 槻 支 店 (城 北 支 店)	東 長 野 支 店 (柳 原 支 店)	8月 21日	水	太 子 町 支 店 (須 坂 支 店・墨 坂 支 店)	豊 野 支 店
6日	火	本 店 営 業 部 (権 堂 支 店・善 光 寺 下 支 店)	川 中 島 支 店 (川 中 島 駅 前 支 店)	22日	木	中 野 支 店 (小 布 施 支 店)	山 ノ 内 支 店 (飯 山 支 店)
7日	水	長 池 支 店 (大 豆 島 支 店)		23日	金	大 門 町 支 店 (桜 枝 町 支 店)	飯 綱 支 店
9日	金	篠 ノ 井 支 店 (川 柳 支 店)	松 代 支 店 (更 北 支 店)	27日	火	本 店 営 業 部	古 里 支 店 (吉 田 支 店)
14日	水	石 堂 支 店 (伊 勢 宮 支 店)	七 瀬 支 店 (南 支 店)	28日	水	本 部	
19日	月	稲 荷 山 支 店 (屋 代 支 店)	上 山 田 支 店 (戸 倉 支 店・坂 城 支 店)	30日	金	本 部	



長野信用金庫 総合企画部

本店 〒380-8686 長野市居町 133-1 TEL 026-228-0221(代)

長野信用金庫 URL <http://www.nagano-shinkin.jp/>

